

## Y01a 超新星符号の付与方式 — TNS のこの1年

山岡均 (国立天文台)

国際天文学連合 (IAU) では、長年にわたって、太陽系内外の新天体の告知は天文電報中央局 (CBAT) が担ってきた。しかし超新星に限っては、研究者による検索プロジェクトが軌道に乗って発見数が膨大になってきたこと、従来の人手を介する分光確認後の符号割り振りでは即時性が得られないことから、発見報告後に即座に符号を付するシステムが2016年の年初から稼働した。TNS (<https://wis-tns.weizmann.ac.il/search>) である。

TNS では、2015年以前のものを含めてこれまでに報告がなされたすべての超新星のデータベースを保持している (古いものでは位置情報がないものもある)。符号や位置で検索すると、対応する天体がリストアップされる。新しい超新星を見つけたと思った場合、位置を測定して検索し、該当する天体があれば、新発見の可能性は高い。

新発見を報告すると、AT 2017xxx のような新たな符号がふられる。xxx の部分は発見順に割り振られるアルファベットで、A, B, ..., Z, aa, ab, ..., az, ba, bb, ..., zz までの702個は従来どおり、そのあとは明文規定はないが aaa, aab, ..., azz, baa, bbb, ... と付される。2016年は12月5日現在で irp まで使われているが、zzz までの18278個まではまだ余裕がありそうだ。分光観測されて超新星であることが確定すると、AT の部分が SN となり、従来の符号と似たものになる。

観測報告にはユーザ登録が必要となる。今のところ、登録の要望には無条件に応じられているようだが、今後はどうなるかわからない。また、新星などの天体については、従来の CBAT による情報収集と IAU circular / CBET による告知が使われており、特に天体搜索者にとって状況は容易ではない。今後の新天体発見の取り扱いについて、より良い方策を議論する。